

北海道（道内港分）における
農林水産物・食品の輸出額
（2025年）

2026年2月26日

農林水産省
北海道農政事務所

2025年1～12月北海道（道内港分）における農林水産物・食品の輸出額

【概要】

2025年1～12月における北海道（道内港）からの農林水産物・食品の輸出額は、1,030億円（対前年比+19.4%）となりました。

内訳として、

農産物は、213億円（対前年比+1.7%）、

林産物は、17億円（対前年比▲28.5%）、

水産物は、800億円（対前年比+27.1%）、

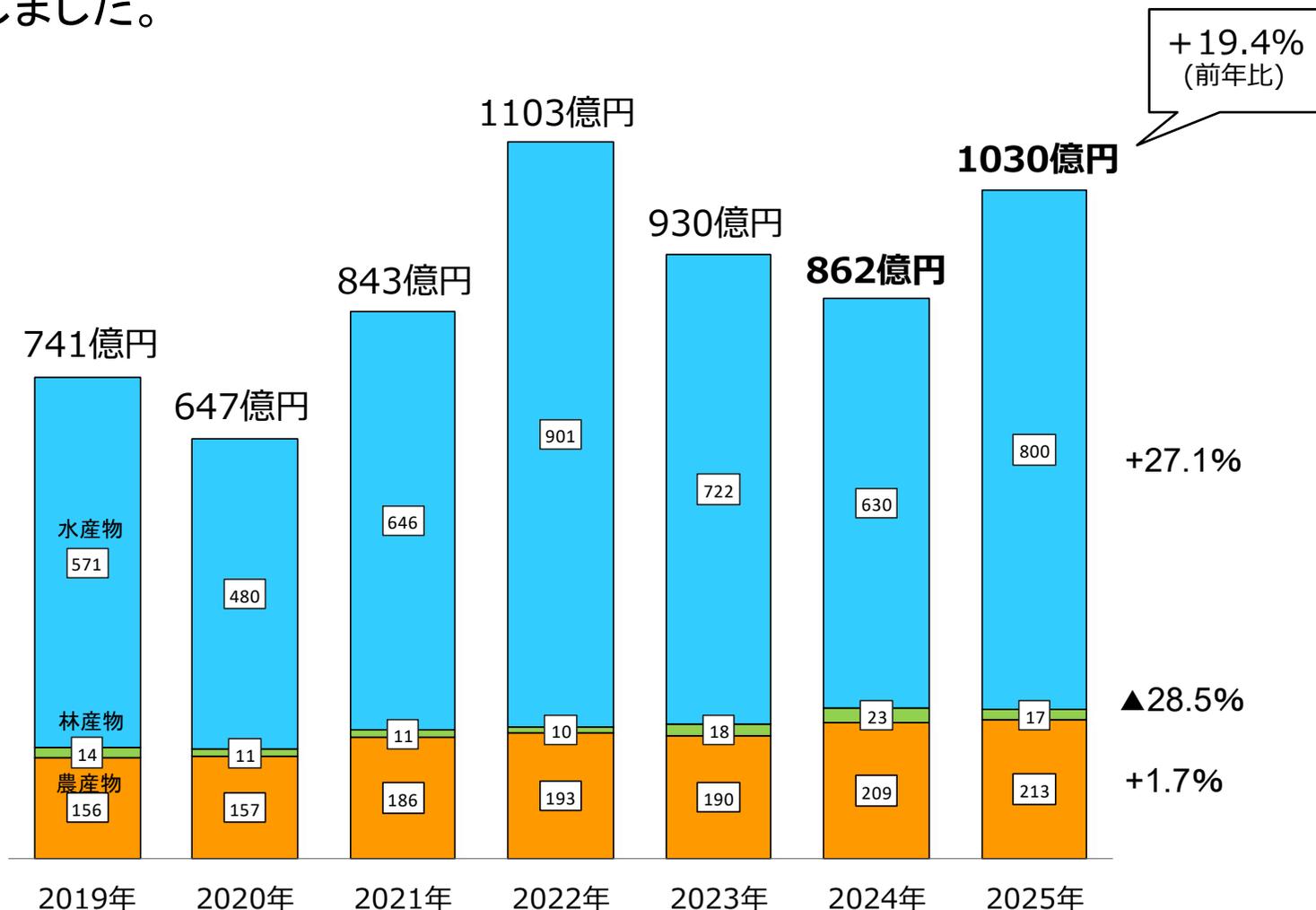
となり、昨年同様、主にホタテ貝をベトナム、タイ等向けに輸出先国の転換が進んだ結果、その増加額が全体を押し上げ+19.4%となりました。

（注）財務省「貿易統計」を基に北海道農政事務所が作成。北海道内の税関（港・空港）から輸出された分のみ。食品（菓子等）のほか、農産物（豚の皮等）、林産物（丸太等）、水産物（真珠、魚油等）が含まれる。

北海道（道内港分）における農林水産物・食品 輸出額の推移

北海道の特徴として、水産物が大半を占めています。

2023年8月、中国による水産物輸入規制等を受け、2023～2024年は連続して減少しましたが、その後、ベトナム、タイ向けに輸出先国の転換が進んだこともあり、2025年は+19.4%と増加に転じました。



農産物で増加額の大きかった主な品目（2025年1-12月）

農産物で増加額の大きかった主な品目は、清涼飲料水等、ながいも、果実缶・びん詰類（納豆を含む）、ベーカリー製品類、米でした。

	品目	増加額	増加率	主な要因
1	清涼飲料水等	+481百万円	+29%	アジア向けが健康志向の高まり等を背景とした緑茶飲料などの需要の高まり、現地規制に対応した商品の導入等により増加。
2	ながいも	+474百万円	+30%	台湾向け(+409百万円)を中心に薬膳料理やジュースの材料として人気。
3	果実缶・びん詰類（納豆を含む）	+327百万円	+102%	中国向けを中心に納豆の需要が好調。
4	ベーカリー製品類	+277百万円	+30%	中国、韓国向けに土産用菓子がインバウンドと相まって好調。
5	米	+200百万円	+16%	米国向けを中心におにぎり需要の高まり等により伸びた。

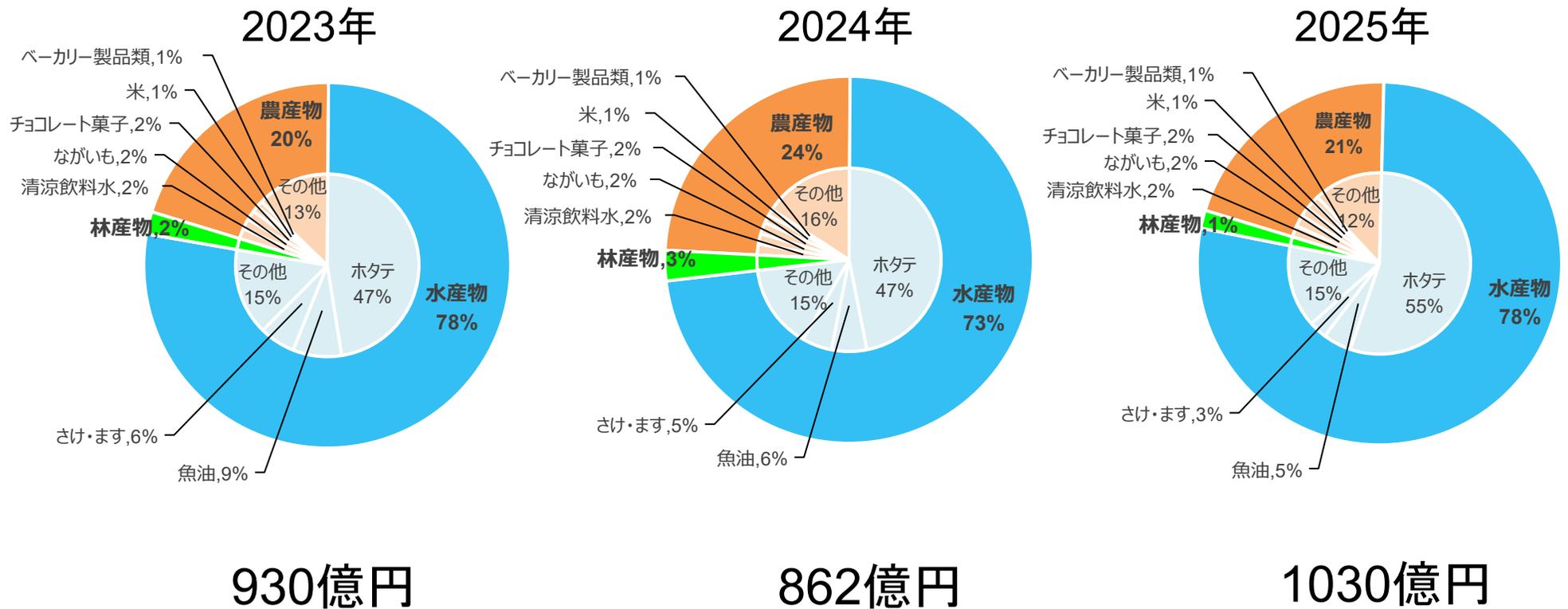
（参考）水産物で増加額の大きい主な品目

	品目名	増加額	増加率	主な要因
1	ホタテ貝	+16,068百万円	+40%	ベトナム向けが加工用の冷凍両貝に加え、玉冷の現地加工の拡大等により増加。

品目別輸出実績の推移

2023年から24年にかけては、中国の水産物輸入規制等による影響のため、ホタテ貝の割合が減少しましたが、25年では持ち直しました。

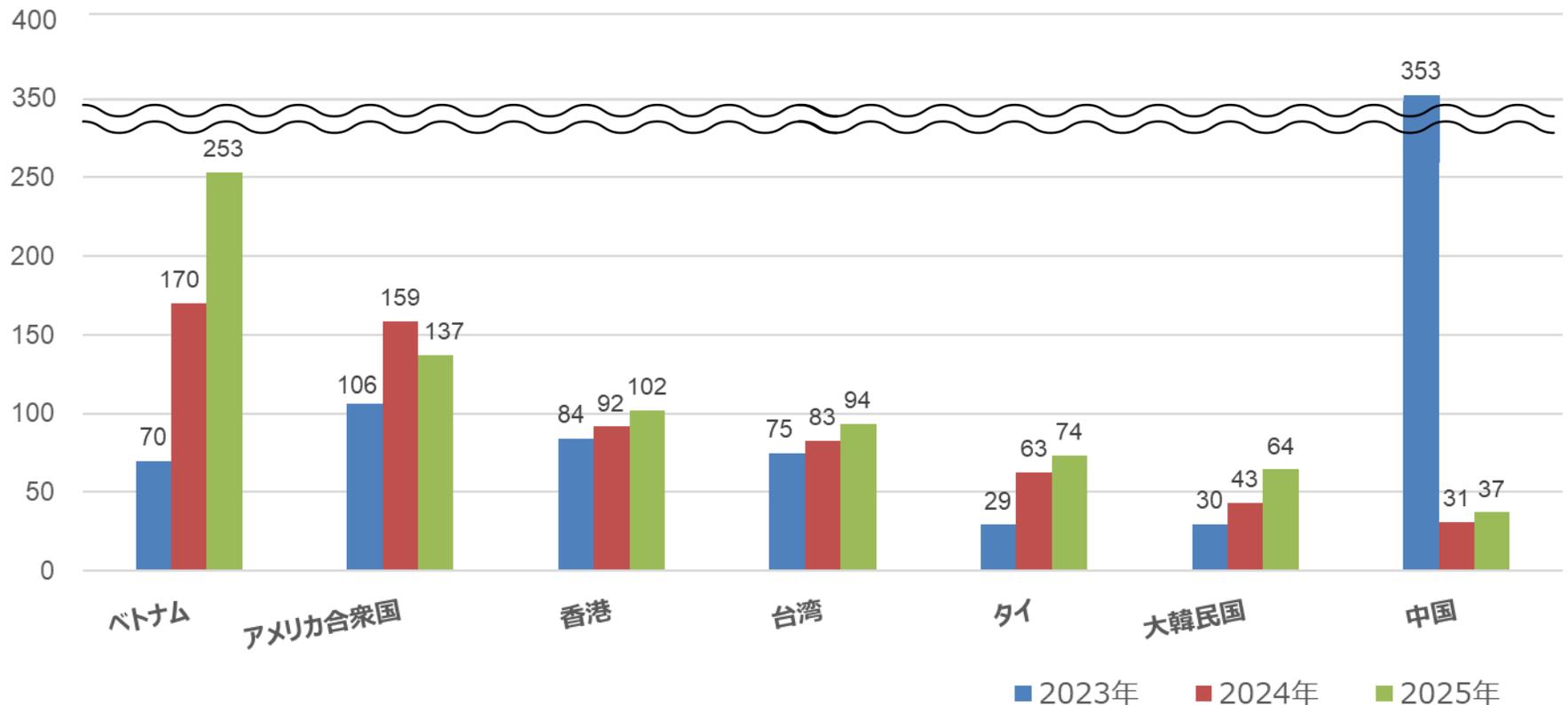
農産物の上位品目は、米とながいもに加えて、加工食品に分類される清涼飲料水、チョコレート菓子、ベーカリー製品類の3品目が、毎年安定して上位に位置しています。



国・地域別輸出実績の推移

国・地域別に見た場合、上位5か国・地域は概ね増加傾向で推移しています。特にベトナムは、輸出額の74.8%をホタテ貝が占め、増加額のほぼ全てをカバーしています。

(億円) 上位7か国・地域の輸出額の推移(2023~2025年(1-12月))

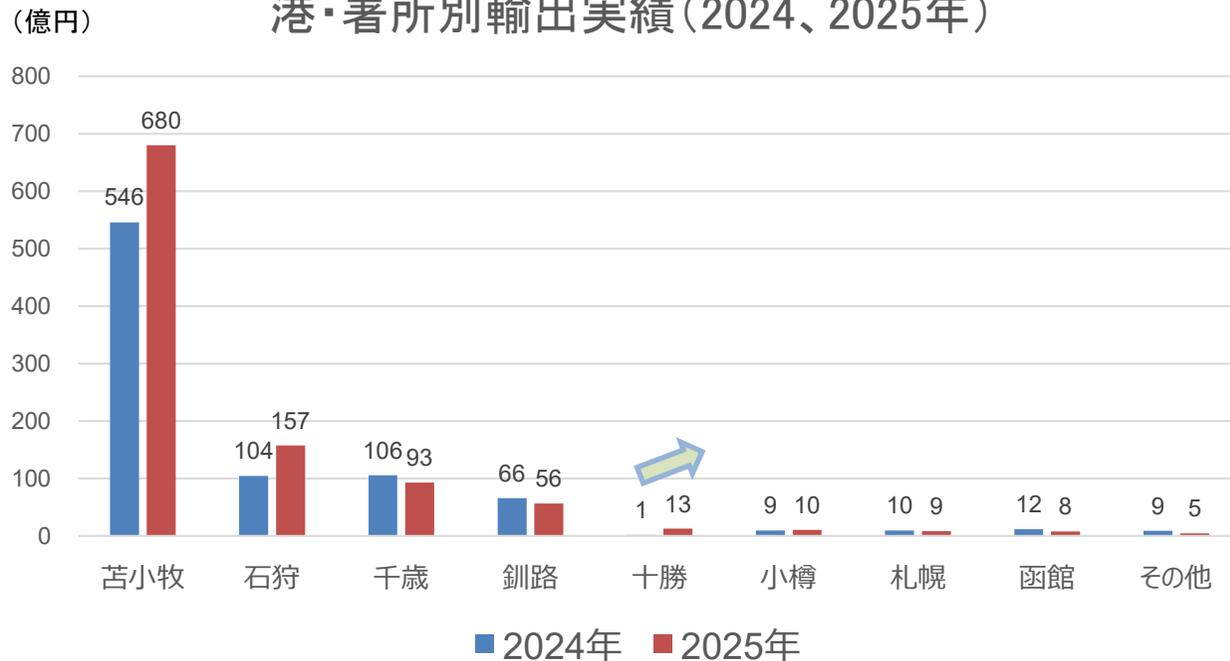


2025年実績(緑色)の多い国・地域順

港・署所別輸出実績（2025年1-12月）

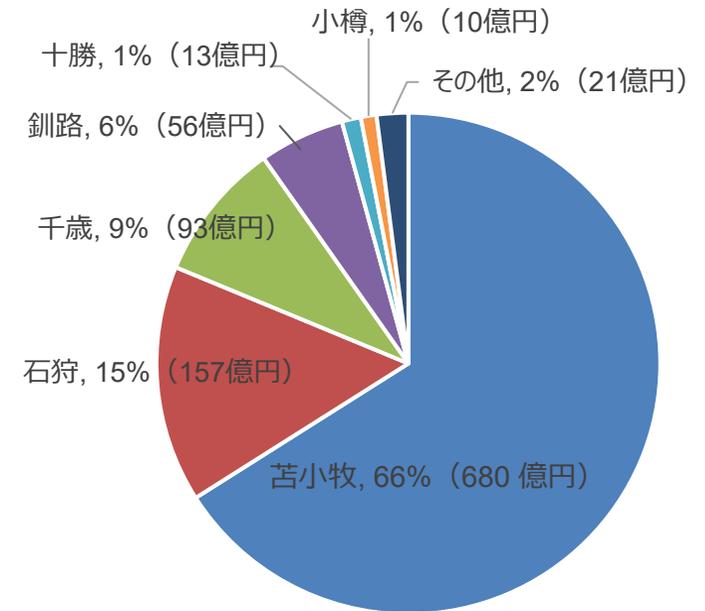
港・署所別に見た場合、苫小牧が過半を占め、石狩、千歳とで9割を占めています。2024年から2025年にかけて十勝が大きな伸長となりました。

港・署所別輸出実績(2024、2025年)



(参考)「その他」は、稚内、紋別、留萌など。

港・署所別輸出割合(2025年1,030億円)



(参考)「その他」は、札幌、函館、稚内、紋別、留萌など。

2025年の北海道（道内港分）における農林水産物・食品 輸出額（1-12月）品目別

品目	金額 (百万円)	前年比 (%)
加工食品	8,862	+18.2
ビール	212	+109.9
清酒	84	▲4.3
その他アルコール飲料	205	▲19.3
調味料	489	+7.5
ソース混合調味料	167	▲21.1
調製食料品	1,686	+52.4
清涼飲料水等	2,146	+28.9
菓子（米菓、チョコレート菓子、ワッフル・ウエハースを除く）	444	+6.0
チョコレート菓子	1,713	▲2.8
ベーカリー製品類	1,217	+29.5
畜産品	5,538	▲21.3
牛肉	449	+7.5
豚肉	798	+35.4
鶏肉	4	▲66.6
鳥卵・卵黄	148	+164.6
酪農品	1,314	▲4.8
牛乳・部分脱脂乳	921	▲4.6
粉乳等	323	▲16.9
動物性油脂	862	▲53.8
原皮	476	▲16.2
穀物等	2,384	▲3.1
穀物	1,491	+15.6
米	1,489	+15.6
穀粉調製品	672	▲36.3
麦芽エキス、穀粉等	169	▲40.2
即席麺	24	▲38.9
パスタ類	406	▲38.8
野菜・果実等	3,855	+21.4

品目	金額 (百万円)	前年比 (%)
果実・その調製品	800	+57.7
野菜・その調製品	3,045	+14.5
野菜（生鮮・冷蔵・乾燥）	2,188	+16.6
たまねぎ及びシャロット	21	▲88.4
ながいも	2,057	+30.0
その他の野菜調製品	856	+9.2
ばれいしょ	734	+17.2
その他農産物	640	▲14.7
配合調製飼料	335	▲23.5
林産物	1,654	▲28.5
素材（丸太）	910	▲30.8
製材	334	▲28.9
水産物（調製品除く）	75,341	+32.0
ホタテ貝	56,430	+39.8
さけ・ます	3,302	▲27.1
たら	928	+111.0
すけそうだら	309	+30.5
いわし	825	+52.4
さんま	239	+11.2
ひらめ・かれい	182	+13.9
かに	2,371	+117.8
いか	221	+426.9
たこ	202	+1,479.3
魚油（肝油除く）	5,217	▲2.1
水産調製品	4,708	▲20.8
貝柱（調製）	382	▲5.3
乾燥なまこ（調製）	1,785	▲14.4
その他の調製なまこ	1,464	▲41.5
キャビア及びその代用物	188	+2.3

2025年の北海道（道内港分）における農林水産物・食品 輸出額（1-12月）国・地域別

順位	輸出先	輸出額 (億円)	金額 構成比 (%)	前年比 (%)	輸出額内訳(億円)			主な輸出品目（下段は全体に占める割合）		
					農産物	林産物	水産物	1位	2位	3位
1	ベトナム	253.5	24.6	+48.8	9.9	0.0	243.5	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 74.8%	さけ・ます 8.3%	ぶり 1.7%
2	アメリカ合衆国	137.2	13.3	▲13.5	18.6	1.1	117.5	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 76.1%	かに（活・生・蔵・凍） 8.5%	米 3.5%
3	香港	102.2	9.9	+11.5	33.3	0.3	68.6	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 29.9%	なまこ（調製） 26.0%	牛乳・部分脱脂乳 8.7%
4	台湾	93.7	9.1	+13.3	26.2	0.1	67.3	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 45.7%	ながいも 17.0%	魚粉等 12.6%
5	タイ	73.6	7.1	+17.3	5.6	1.4	66.6	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 65.6%	さけ・ます 13.2%	その他軟体動物 3.5%
6	大韓民国	64.4	6.3	+48.6	18.1	6.6	39.7	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 41.8%	動物性油脂 10.1%	丸太 9.8%
7	中華人民共和国	37.1	3.6	+18.9	32.4	4.2	0.5	清涼飲料水等 34.8%	果実缶・びん詰類 15.6%	ベーカリー製品類 11.3%
8	オランダ	32.8	3.2	+58.0	0.9	0.0	31.9	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 97.3%	清涼飲料水等 1.2%	醤油 0.9%
9	チリ	26.8	2.6	▲6.9	0.0	0.0	26.8	魚油（肝油除く） 100.0%	— —	— —
10	マレーシア	26.4	2.6	+31.2	5.2	0.0	21.2	魚油（肝油除く） 55.1%	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 16.0%	チョコレート菓子 7.2%
—	E U	88.0	8.5	+40.5	20.9	0.6	66.5	ホタテ貝（生・蔵・凍・塩・乾） 75.5%	調製食料品 11.3%	パスタ類 4.0%

農林水産物・食品輸出プロジェクト（GFP）の取組

- GFP（ジー・エフ・ピー）は、Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Projectの略称。農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品の輸出プロジェクト。
- 平成30年8月31日に農林水産物・食品の輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者等のサポートと連携を図る「GFPコミュニティサイト」を立ち上げ。
- 当該サイトに登録した者を対象に、専門家による輸出診断、事業者同士のマッチング、セミナーの開催や、規制など輸出に関する各種情報提供等の支援を実施。



GFP登録者へのサービス提供

○農林漁業者・食品事業者へのサービス

- ・ 専門家による無料の輸出診断
- ・ GFPコミュニティサイトで事業者同士が直接マッチング
- ・ GFPビジネスパートナーの紹介等による支援
- ・ 輸出のための産地づくりの計画策定の支援
- ・ メンバー同士の交流イベントの参加
- ・ 規制情報等の輸出に関連する情報の提供
- ・ セミナー等を通じたGFP登録者の優良事例の共有
- ・ 過去のセミナー動画のアーカイブ化による輸出ノウハウの提供

○輸出商社・バイヤー・物流企業へのサービス

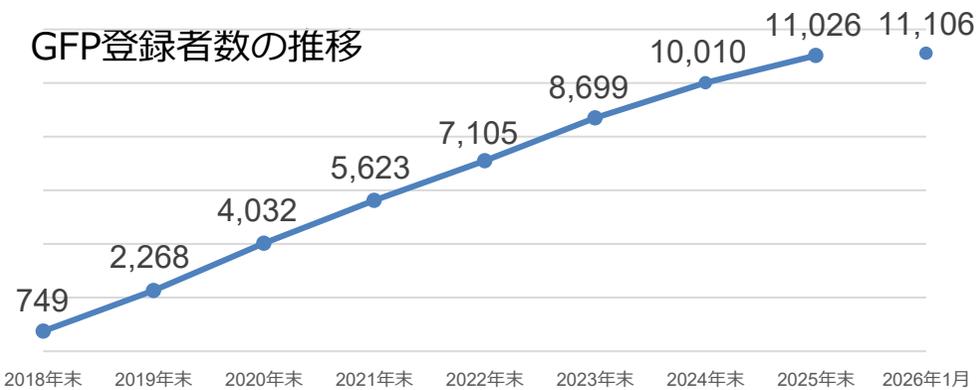
- ・ GFPコミュニティサイトで事業者同士が直接マッチング
- ・ GFPビジネスパートナーの紹介等による支援
- ・ メンバー同士の交流イベントの参加
- ・ 規制情報等の輸出に関連する情報の提供
- ・ セミナー等を通じたGFP登録者の優良事例の共有
- ・ 過去のセミナー動画のアーカイブ化による輸出ノウハウの提供

GFPの登録状況（1月末時点）

GFP登録者の内訳

区分	登録者数
農林水産物食品事業者	6,170
流通事業者、物流事業者	4,936
合計	11,106

GFP登録者数の推移



GFP北海道の取組



- 北海道農政事務所では、令和4年11月、全国初の地方版GFP「GFP北海道」を発足。
- 北海道内の農林水産事業者・食品事業者等、これから輸出に取り組もうとする初心者から経験者まできめ細かくサポート。

令和7年度の取組

➤ 輸出セミナー&商談会、産地視察ツアー

地方自治体や商工会等の経済団体と連携し、地域にあった品目を中心とした輸出セミナー&商談会、バイヤー向けの産地視察ツアーを道内3地域（札幌、旭川、釧路）で開催。特に釧路はGFP北海道として初となる開催。



セミナーの様子
(令和7年8月27日、札幌)



産地視察ツアーの様子
(令和7年9月10日、旭川)

➤ 道産品ニーズ調査

外国人を対象とした試飲・試食会による道産品ニーズ調査を実施し、輸出に取り組む事業者・生産者にとって今後の輸出戦略の参考となる情報を収集。



国際会議での調査
(令和7年10月24日、札幌)



道庁赤れんが庁舎での調査
(令和8年2月7日、札幌)

➤ 伴走支援のための体制の構築・稼働

輸出事業者の課題に応じて必要な輸出専門人材の手配・調整を行うことのできる体制を構築・稼働。

- ✓ 輸出産地サポーターによるフォローアップ
- ✓ プロフェッショナル人材戦略拠点との連携等

(参考)
全国版実績

2025年 農林水産物・食品の輸出額

2025年1-12月の輸出額は、対前年比+12.8%の1兆7,005億円となりました。

(2024年1-12月の輸出額：1兆5,071億円)

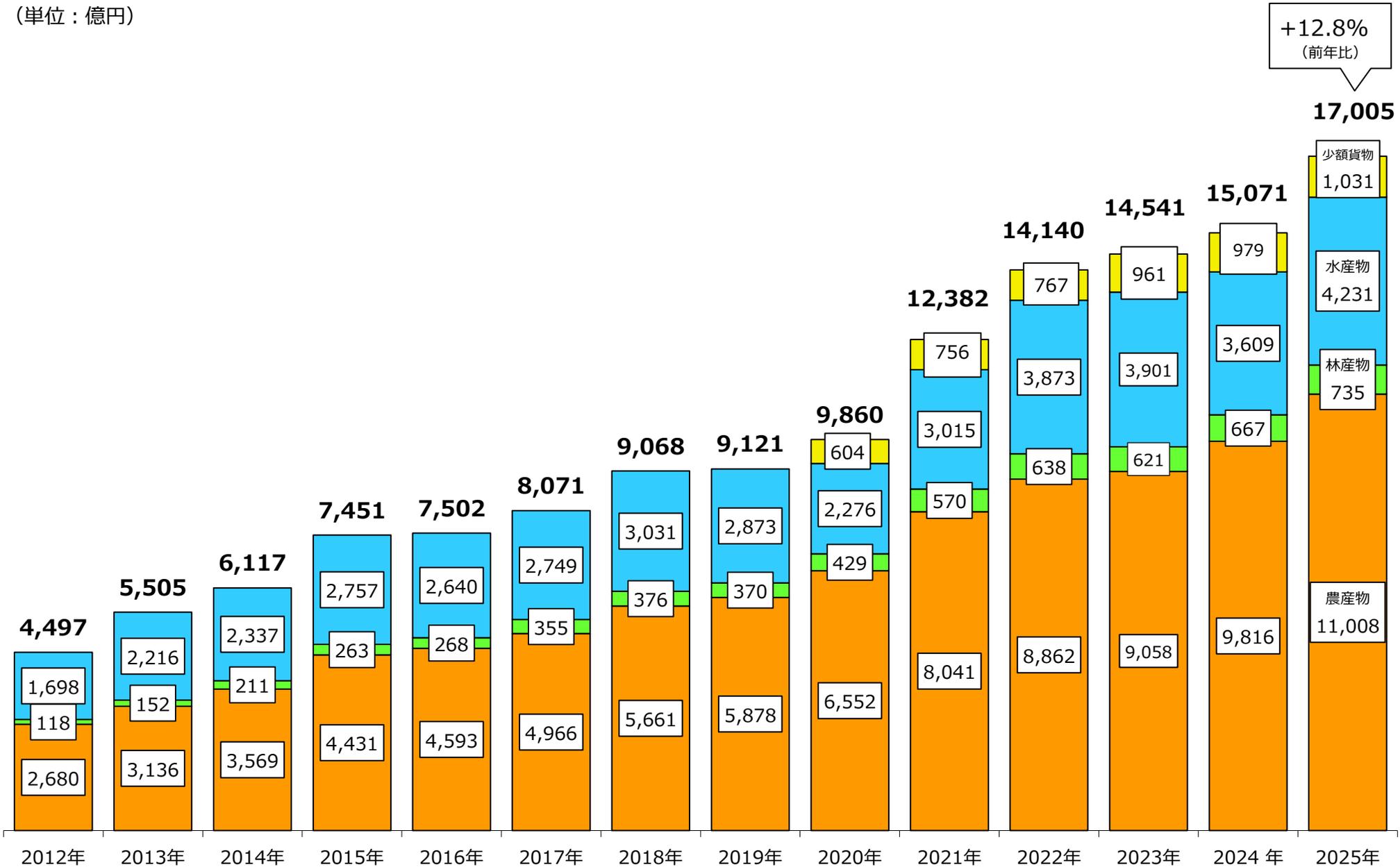
	金額	前年差	前年比
1-12月累計 (少額貨物を含む)	17,005億円	+1,934億円	+12.8%
うち米国	2,762億円	+333億円	+13.7%
うち香港	2,228億円	+18億円	+0.8%
うち台湾	1,812億円	+109億円	+6.4%
うち中国	1,799億円	+118億円	+7.0%
うち少額貨物	1,031億円	+52億円	+5.3%

全体の状況（1-12月）

- ・ 主要輸出先国・地域のすべてで対前年比でプラスを記録し、13年連続で過去最高を更新しました。
- ・ 米国向けについては、4月から関税措置が導入されたものの、緑茶や牛肉に対する旺盛な需要を背景に、対前年比13.7%増加の2,762億円を記録したほか、日本産水産物の輸入規制の影響が残る中国向けについても、対前年比7.0%増加の1,799億円を記録しました。
- ・ 品目別では牛肉、米、緑茶、ぶりなどが、国・地域では、米国、台湾、韓国などが過去最高を記録しました。
- ・ 関係者の聞き取りでは、日本食への関心の高まり、インバウンドによる日本食の認知度向上、健康志向の高まり等を背景に、既存商流における取扱量の拡大や新規商流の獲得などが輸出増加の要因でした。

農林水産物・食品 輸出額の推移

(単位：億円)



+12.8%
(前年比)

※財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

2025年 農林水産物・食品の輸出額

品目別の状況（1-12月）

輸出額の増加が大きい輸出重点品目

品目	増加額	主な増加要因
緑茶	+357億円	欧米・ASEAN向け等が健康志向や日本食への関心の高まり等を背景に、ラテやスイーツ等の食品原料となる抹茶を含む粉末状茶を中心に増加。
ホタテ貝	+211億円	ベトナム向けが加工用の冷凍両貝に加え、玉冷の現地加工の拡大等により増加。
ぶり	+113億円	米国向けが2024年夏の環境変化による成長の遅れに伴う輸出時期の後ろ倒しのほか、脂の乗った大型サイズの需要の高まり等で単価上昇により増加。
牛肉	+83億円	欧米・アジア向けが既存商流の拡大や新規商流の開拓等による需要の高まりにより増加。
ウイスキー	+53億円	シンガポール向けが認知度の向上による需要の高まり等により増加。
ソース混合調味料	+52億円	米国・アジア向けが日本食への関心の高まり、インバウンドの増加等により、マヨネーズのほか、ごま味やしそ味など様々な調味料の需要の高まり等により増加。
菓子（米菓除く）	+30億円	米国・アジア向けがSNSを通じた日本産品への人気の高まり、新規商流の開拓による需要の高まり等により増加。
清涼飲料水	+30億円	アジア向けが健康志向の高まり等を背景とした緑茶飲料などの需要の高まり、現地規制に対応した商品の導入等により増加。
製材	+28億円	米国向けが日本産スギフェンス材の認知度向上による需要の高まり等により増加。
錦鯉	+27億円	中国向けが施設認定の更新により再開したほか、米国向けが現地プロモーションによる人気の高まり等により増加。

輸出額の減少が大きい品目

品目	減少額	主な減少要因
ホタテ貝加工品	▲59億円	香港向けが干し貝柱やボイルほたてなどに向けられるホタテ貝の不漁等により減少。
りんご	▲58億円	台湾向けが春節需要期のずれに加え、高温・雪害により贈答用の大玉で見栄えの良いものが確保できなかったこと等により減少。
なまこ（調製）	▲26億円	香港・台湾向けが引き合いの弱まりによる単価の下落等により減少。
植木等	▲18億円	ベトナム向けが同国政府の輸入許可証の発行手続の遅延により減少。

2025年1-12月 農林水産物・食品 輸出額（国・地域別）

順位	2025年1-12月（累計）							2025年12月（単月）				
	輸出先	輸出額 （億円）	金額 構成比 （%）	前年比 （%）	輸出額内訳（億円）			輸出額 （億円）	前年 同月比 （%）	輸出額内訳（億円）		
					農産物	林産物	水産物			農産物	林産物	水産物
1	米国	2,762	17.3	+13.7	1,847	88	828	265	+0.6	193	7	65
2	香港	2,228	13.9	+0.8	1,354	20	854	198	▲ 8.9	132	2	65
3	台湾	1,812	11.3	+6.4	1,364	45	403	222	▲ 2.0	170	5	47
4	中国	1,799	11.3	+7.0	1,387	345	67	177	▲ 2.2	132	34	12
5	韓国	1,094	6.8	+20.0	689	40	365	139	+25.1	66	4	70
6	ベトナム	954	6.0	+10.7	453	7	493	121	+27.4	56	1	65
7	タイ	735	4.6	+17.1	379	11	346	72	+26.9	35	1	36
8	シンガポール	563	3.5	+1.2	460	6	98	48	▲ 9.5	36	1	12
9	ロシア	414	2.6	+439.3	413	0	1	4	▲ 90.0	4	0	0
10	オーストラリア	382	2.4	+16.6	329	2	50	35	+19.0	27	0	7
-	EU	997	6.2	+16.2	821	22	154	115	+32.7	95	2	19

輸出額の増加が大きい主な国・地域（2025年1-12月）

国・地域	増加額	主な増加品目
米国	+333億円	緑茶、ぶり、かに（冷凍）
韓国	+182億円	ぶり、ビール、いわし
中国	+118億円	錦鯉、ビール、丸太

輸出額の減少が大きい主な国・地域（2025年1-12月）

国・地域	減少額	主な減少品目
オマーン	▲ 12億円	ソース混合調味料、醤油
グアム（米）	▲ 7億円	牛肉、菓子（米菓を除く）、りんご
ナミビア	▲ 6億円	錦鯉、かに（冷凍）、かに調製品

2025年の農林水産物・食品 輸出額（1-12月）（品目別）

品目		金額 (百万円)	前年比 (%)	
農 産 物	畜産品	142,769	+2.3	
	畜産物	117,253	+9.2	
	牛肉	73,105	+12.8	
	豚肉	2,977	+25.3	
	鶏肉	2,548	+2.7	
	鶏卵	8,140	+14.5	
	牛乳乳製品	30,482	▲ 0.2	
	果樹・野菜等	71,071	▲ 2.9	
	果樹	りんご	14,369	▲ 28.6
		ぶどう	4,669	▲ 21.3
		もも	2,474	▲ 16.2
		かんきつ	1,436	▲ 3.4
		かき・かき加工品	1,118	▲ 1.1
		なし	1,141	+11.7
	野菜	いちご	6,736	+24.6
		かんしょ・かんしょ加工品	4,465	+24.0
		ながいも	3,721	+10.9
		メロン	1,200	▲ 5.9
		たまねぎ	123	▲ 62.3
	穀物等	78,233	+5.5	
米（援助米を除く）	13,880	+15.4		
パックご飯等	2,022	+31.0		
その他農産物	198,496	+27.3		
緑茶	72,094	+98.2		
花き	7,872	▲ 19.8		
切り花	1,491	▲ 9.3		
植木等	6,090	▲ 23.1		
たばこ	22,844	+14.5		

品目		金額 (百万円)	前年比 (%)
農 産 物	加工食品	572,488	+7.2
	清涼飲料水	60,434	+5.2
	菓子（米菓を除く）	37,384	+8.8
	米菓（あられ・せんべい）	5,959	▲ 9.3
	ソース混合調味料	72,146	+7.8
	味噌	7,142	+13.1
	醤油	13,493	+10.7
	アルコール飲料	149,477	+11.8
	日本酒	45,879	+5.6
	ウイスキー	48,979	+12.2
焼酎（泡盛を含む）	1,960	+13.9	
農産物計	1,100,821	+12.1	
林 産 物	林産物計	73,478	+10.1
	製材	10,238	+38.4
	合板	8,609	+16.5
	丸太	29,850	+5.8
	木製家具	8,910	+9.4
水 産 物	水産物（調製品を除く）	353,604	+25.4
	ぶり	52,775	+27.4
	たい	8,024	+16.2
	ホタテ貝	90,587	+30.4
	牡蠣	4,242	▲ 12.2
	真珠（天然・養殖）	41,167	▲ 0.1
	錦鯉	9,973	+37.9
	いわし	20,742	+91.8
	かつお・まぐろ類	21,537	+7.2
	さけ・ます	4,493	▲ 20.5
	さば	19,077	+94.5
	さんま	876	+101.4
	すけとうたら	1,389	+21.1
	水産調製品	69,514	▲ 12.0
	なまこ（調製）	7,893	▲ 24.8
	練り製品	11,768	+4.4
	ホタテ貝加工品	11,827	▲ 33.2
	牡蠣加工品	1,270	▲ 8.9
	水産物計	423,118	+17.2
	農林水産物・食品	1,597,417	+13.4

※財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
 ※「パックご飯等」は、パックご飯・加工米飯・米粉及び米粉製品の合計。政府による食糧援助を除く。
 ※「ソース混合調味料」は、カレー調製品・マヨネーズ・ドレッシング・酢・ウスターソース類等の合計
 ※2025年から、「ソース混合調味料」には酢、「製材」には改良木材、「合板」にはLVLやブロックボード等を含む
 ※農産物計には、詳細の不明な農林水産物37,765百万円を含む

2025年1-12月 農林水産物・食品 輸出額（月別）

	農林水産物	前年同月比	輸出額内訳		
			農産物	林産物	水産物
1月	954 億円	+10.4%	672 億円	44 億円	238 億円
2月	1,287 億円	+20.2%	840 億円	62 億円	386 億円
3月	1,420 億円	+19.3%	977 億円	66 億円	376 億円
4月	1,345 億円	+14.8%	937 億円	65 億円	343 億円
5月	1,214 億円	+13.8%	863 億円	64 億円	287 億円
6月	1,377 億円	+16.2%	942 億円	70 億円	364 億円
7月	1,291 億円	+12.9%	923 億円	64 億円	305 億円
8月	1,191 億円	+13.7%	844 億円	47 億円	300 億円
9月	1,463 億円	+16.1%	978 億円	59 億円	426 億円
10月	1,374 億円	+10.9%	963 億円	66 億円	344 億円
11月	1,450 億円	+10.6%	978 億円	62 億円	411 億円
12月	1,609 億円	+4.3%	1,092 億円	67 億円	451 億円
計	15,974 億円	+13.4%	11,008億円	735億円	4,231億円

<少額貨物輸出額>

	少額貨物	前年同期比
1-6月	501億円	+8.2%
7-12月	531億円	+2.8%
計	1,031億円	+5.3%

※少額貨物…輸出入申告の際、1品目20万円以下の貨物に関しては「貿易統計」に計上されておらず、別途調査を行っている。（1-6月、7-12月の年2回集計）

※財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
※少額貨物は財務省調査を基に農林水産省作成

フラッグシップ輸出産地について

○ 輸出拡大実行戦略において、**輸出先国・地域のニーズや規制に対応した農林水産物を求められる量で継続的に輸出する産地を「フラッグシップ輸出産地」として有識者会議にて選定し、公表。**現在**108産地**を大臣認定（2025年12月末現在）。

▶フラッグシップ輸出産地の選定基準

- ① 輸出先国・地域の規制やニーズに対応した輸出向け生産・流通に取り組んでいること
- ② 品目ごとに設定された一定の量又は金額の輸出実績があること
- ③ サプライチェーンを構築し、継続的・安定的に輸出していること 等

○ 「フラッグシップ輸出産地」に対し、補助事業等各種支援措置を優先的に実施することにより、その更なる拡大・発展を後押し



フラッグシップ輸出産地 認定産地 (2025年12月現在)

【全108産地】

青果物(40産地)	
りんご	株式会社日本農薬① 青森県
	全国農業協同組合連合会山形県本部② 山形県
	つがる弘前農業協同組合③ 青森県
	津軽みらい農業協同組合④ 青森県
ぶどう	アグベル株式会社① 山梨県、茨城県
	全国農業協同組合連合会山梨県本部 (JAフルーツ山梨・JAふえぶき・JA山梨みらい・JA南アル山山梨県プス市・JA梨北)① 山梨県
	笛吹農業協同組合一宮ブロック果実販売対策協議会① 山梨県
	株式会社新並商事② 山梨県
	全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山、JA晴れの国岡山)② 岡山県
	全国農業協同組合連合会長野県本部② 長野県
	ジャパンフルーツ株式会社③ 栃木県、長野県
	全国農業協同組合連合会山梨県本部 (JAフルーツ山梨・JAふえぶき・JA山梨みらい・JA南アル山山梨県プス市・JA梨北)① 山梨県
	笛吹農業協同組合一宮ブロック果実販売対策協議会① 山梨県
	全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山、JA晴れの国岡山)② 岡山県
もも	和歌山県農業協同組合 (JAわかやま)③ 和歌山県
	えひめ愛ファド推進機構① 愛媛県
かんきつ	株式会社ソロンファーム 熊本① 熊本県
	みかん輸出コンソーシアム① 宮崎県、和歌山県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県
柿	Jewelry Farm Group 株式会社③ 福岡県
	和歌山県農業協同組合 (JAわかやま)③ 和歌山県
かき加工品 (干し柿)	みなみ信州農業協同組合① 長野県
	農事組合法人富山干柿出荷組合連合会② 富山県
いちご	志賀農業協同組合① 石川県
	株式会社イチゴコス① 熊本県、三重県、兵庫県
	サプライズインターマーズ株式会社① 熊本県
	静岡県経済農業協同組合連合会① 静岡県
	島原雲仙農業協同組合① 長崎県
	熊本県経済農業協同組合連合会③ 熊本県
	北部九州いちご輸出促進協議会③ 福岡県、佐賀県
	かとり農業協同組合① 千葉県
	宮崎県、 北海道 、茨城県、熊本県、鹿児島県
	株式会社しまアオファーム① 静岡県
かんしょ	ジャパンベジタル株式会社① 静岡県
	Japan potato 有限会社① 鹿児島県、千葉県、茨城県
	なめがたしおさい農業協同組合甘藷部連絡会① 茨城県
	農家ソムリエーズ① 徳島県
	有限会社南橋商事① 鹿児島県、宮崎県
玉ねぎ	ホクレン農業協同組合連合会② 北海道
スロン	静岡県温室農業協同組合クラウンズロン支所① 静岡県
なし	大分県農業協同組合日田梨部会③ 大分県
わさび	藤屋わさび農園 有限会社③ 長野県

米(9産地)	
米	株式会社百笑市場① 茨城県
	みやぎ倉米農業協同組合① 宮城県
	全国農業協同組合連合会滋賀県本部 JA全農しかり② 滋賀県
	新潟クボタグループ (特新潟クボタ・特新潟農商)② 新潟県
	ホクレン農業協同組合連合会② 北海道
	みな穂農業協同組合② 富山県
切り花	秋田県農畜産物輸出促進協議会「グローバルリーチ AKITAJ」③ 秋田県
	秋田県農畜産物輸出促進協議会「グローバルリーチ AKITAJ」③ 秋田県
	芦別RICE北海道米輸出拡大推進協議会③ 北海道
盆栽	松原米穀契約生産者組合③ 北海道
	松原米穀契約生産者組合③ 北海道
花き(4産地)	
切り花	愛知みなみ農業協同組合② 愛知県
	高知市農業協同組合③ 高知県
	赤石五葉松輸出振興協会① 愛媛県、香川県
盆栽	高松盆栽輸出振興会① 香川県
茶(12産地)	
茶	オーガニックテイヤザキ① 宮崎県
	株式会社大石茶園① 福岡県、静岡県、三重県、京都府、熊本県、宮崎県、鹿児島県
	株式会社流通サービス① 静岡県
	福岡県 京都府農林水産物・加工品輸出促進協議会 宇治茶部会① 京都府
	静岡オーガニック抹茶株式会社① 静岡県
	丸山製茶株式会社① 静岡県
	鹿児島県経済農業協同組合連合会② 鹿児島県
	株式会社まるるい② 三重県
	池田製茶株式会社③ 鹿児島県
	株式会社あいや③ 愛知県
	丸原水沢製茶株式会社③ 三重県
	有限会社荻村製茶③ 三重県

畜産物(25産地)	
牛肉	秋田牛輸出促進コンソーシアム① 秋田県
	かみチク食肉輸出コンソーシアム① 鹿児島県
	JA食肉かこしま輸出コンソーシアム① 鹿児島県
	スターゼンミートコンソーシアム① 鹿児島県、宮崎県
	山形県食肉流通・輸出促進コンソーシアム 山形県
	黒樟牛輸出促進コンソーシアム② 熊本県、宮崎県、鹿児島県、大分県
	ホクレン食肉輸出コンソーシアム② 北海道
	宮崎県牛肉輸出コンソーシアム② 宮崎県
	ブランドおおい輸出促進協議会畜産部会 大分県
	兵庫県、 北海道 、岩手県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、長野県、滋賀県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県
和牛マスター輸出拡大コンソーシアム② 岩手県	
豚肉	ぐんまブランド牛肉輸出コンソーシアム③ 群馬県
	とちぎ牛肉輸出拡大コンソーシアム③ 栃木県
鶏肉	飛騨ミート農業協同組合連合会コンソーシアム③ 岐阜県
	ホクレン食肉輸出コンソーシアム② 北海道
鶏卵	オヤマ輸出コンソーシアム① 岩手県
	徳島県阿波尾鶏ブランド確立対策協議会① 徳島県
牛乳	株式会社エムイーシーファーズ① 千葉県
	株式会社マル① 群馬県、栃木県
乳製品	JA全農たまご株式会社① 青森県、岩手県、大分県、福岡県、鹿児島県
	熊本県酪農協同組合連合会② 熊本県
肉類	大山乳業協同組合② 鳥取県
	北海道乳業株式会社輸出促進協議会② 北海道
	雪印メグミルクコンソーシアム② 北海道
	よつ葉輸出促進協議会② 北海道

水産物(16産地)	
ぶり	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体② 愛媛県
	東町漁業協同組合② 鹿児島県
	大分県漁業協同組合② 大分県
	尾鷲物産株式会社② 三重県、愛媛県、高知県、香川県
たい	グローバル・オーシャン・ワークスグループ② 鹿児島県
	三重県漁業協同組合連合会② 三重県、鹿児島県、長崎県、愛媛県
	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体② 愛媛県
牡蠣	愛南漁業協同組合② 愛媛県
	株式会社播磨灘② 兵庫県
	クニヒロ株式会社③ 広島県
	日本石花と仲間たち (英名: Japan Oysters & Co.)③ 神奈川県、 北海道 、岩手県、宮城県、三重県、兵庫県、徳島県、香川県、広島県、福岡県、大分県、長崎県
カンパチ	垂水市漁業協同組合② 鹿児島県
	クロマダロ 辻水産株式会社② 愛媛県
シマアジ	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体② 愛媛県
	株式会社 山神③ 群馬県
煮干魚介類	尾道海産株式会社③ 広島県
林産物(2産地)	
製材	桑原木材株式会社② 愛知県、岐阜県、三重県、長野県
	江与味製材株式会社③ 岡山県